

気象災害の図上訓練（DIG）について

鶴田誠 植松久芳 大西保明 前川勝重 伊藤荒人 多々良秀世（東海支部／NPO法人 WFT）

1 はじめに

地球温暖化により短時間の豪雨が多くなり気象災害が増加したと言われています。このような災害時には最適な避難行動ができるようにすることが重要なテーマとなっています。

この問題に対して、私たちは新たに気象防災DIG（災害図上訓練）方法を確立して、実践することに取り組んでいます。このことにより、住民が気象災害の理解を深め、安全な避難行動を学習することで、減災に少しでも役立てるように願っています。

なお、地震災害ではDIG が実践されていますが、気象災害はまだDIG 方法が未確立でほとんど実践されていません。

2、気象防災DIG の方法について

気象災害を減災するには、ハード面とソフト面からのアプローチがあります。ソフト面には、気象防災情報を出す側の研究開発、情報伝達の方法の改善、最適な避難行動をするための学習・訓練等があります。私たちはこの非難行動を支援するためのカリキュラムを検討しました。

（1）午前：防災の学習（1～2時間程度）

気象情報の入手方法（HP，携帯）、注意報・警報、避難準備情報・避難勧告・避難指示の情報の出るタイミング・情報内容を理解できるような講習としました。

- ① 気象情報の見方
- ② 局地豪雨の気象の特徴
- ③ 気象庁の注意報・警報・情報等
- ④ 国の洪水情報、県の洪水情報
- ⑤ 市町村の準備情報、避難勧告、避難指示等の情報
- ⑥ 洪水災害の状況
- ⑦ 避難時の事前準備（服装、装具、食料等）
- ⑧ 避難後の各段階での想定（不在者連絡、避難所の設備、被害復旧要領）
- ⑨ 新旧の地形図により土地利用の変遷



防災学習



立体地図と積乱雲の模型

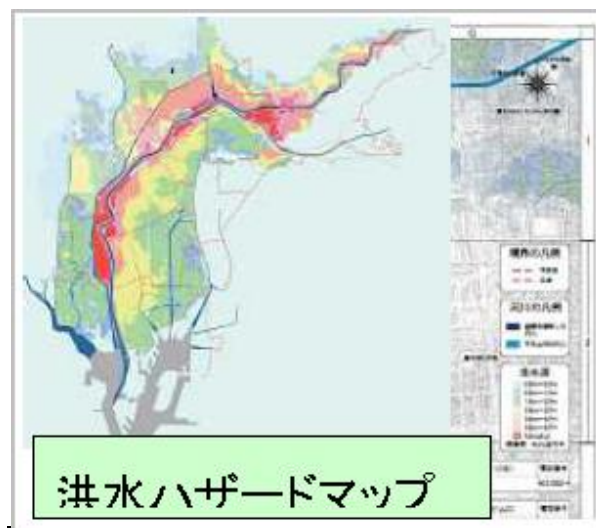


土地利用の形態図

（2）午後：気象災害DIG の実習（3時間程度）
自分の住んでいる場所の環境（洪水・浸水、土砂災害）を把握します。また、ハザードマップ等を利用して、避難経路の確認、家族の連絡、周辺住民との連携を確認します。このような内容についてDIGの実習をします。

- ① 基本地図作成：当該地域の構造・特徴（道路、河川、高い建物避難所、学校等の記入）

- ② 洪水ハザードマップなどから浸水深さを図に記入
- ③ 検討する時点での気象状況・環境条件（注意報、警報、冠水の初期、床下浸）の想定④ 想定を基にグループによる検討・発表避難時の各段階での危険の想定、避難ルートの想定
- ⑥ 問題点の抽出
 （減災のための対策）
 （現地踏査）
 （避難ルートの検証）
- 減災のための対策・提言等のまとめ



（名古屋市HPより）

3、今後の課題

最適な避難行動を学習するには

- ・避難時の想定は色々な状況を考えてDIGを実施すること、
- ・現地踏査・避難ルートの検証などは半日程度ではまだ十分でない点

など今後改善する課題が残った。

また、気象防災DIGはまだ河川洪水についてのみの検討であったので、今後土砂災害など種々の気象災害についてもさらなる研究を進める必要があります。

4、謝辞

今回の気象防災DIGの方法については、廣内（信大）、大西（富山大）の両先生にご指導・有益なアドバイスをいただき、ありがとうございました。

NPO 法人 ウェザーフロンティア東海
 連絡先：〒464-0054
 名古屋市千種区田代町蝮池上108-78
 TEL 052-762-8877 FAX 052-751-0017
 URL:<http://wftokai.com/>